

1.NTSは出版社か？

●昭和59年1月1日の創業から数えて今年(23期下)25年目を迎える。

出版社の寿命が20年とも言われる中、ここまで事業を継続することができた力は何だったのか？次の20年を迎えるための条件とは何か？本欄で20年までの歩みを「NTS物語」と題して辿ってきたが、25年目以降の新たな物語の創造をめざして、その持続可能な事業モデル、理工系専門図書出版という基幹事業と新規事業の方向性を考えることにする。そのためにもまず、そもそも出版事業とは何か？その根本概念を踏まえておきたい。

●最近、出版業界の幹部と一席持った。

酒が進むうち、「NTSは出版社ですか？」と問われた。NTSが出版事業で成立っていることを承知の上での質問なので、当り前の答えを期待されてはいないと考え、「スタッフにはしばしば出版社ではないと説明している。セミナーという事業形態もあります。」と率直にお答えした所、先方が頷いた。NTSはセミナー産業の一形態であり正統な出版業界からは異端との思いがあったためだろう。しかし「あえて言えば情報企業です」と続けたところ怪訝な表情に戻った。そこで、NTSは情報というコンテンツを提供する企業であり、「本というメディア」はその結果であることをご説明するため、セミ

ナー産業が終戦後、高度成長を求め産業界のニーズの下で誕生したが、やがて出版産業化して今に至る流れを私の知る限りの知識でご説明した。恐らくNTS社内でも出版とセミナーという異なる事業形態の共存に違和感を抱く考えもあるだろう。25年目以降の事業形態を描くに当り、このいわばアイデンティティの不同意を整理しておく必要がある。なぜなら今、世界を舞台に起きていることはコンテンツ革命ではなくメディア革命だからである。米バイアコム会長サムナー・レッドストーン氏は「容器(メディア)と中身(コンテンツ)のどちらが重要かという問いに正解はない」(日経朝刊08年5月25日)と語るが、それは少なくとも両者が厳密に区別された上でのことである。しかし、特に出版事業においては容器と中身はしばしば分ちがたく融合しているように思えるのは何故だろうか？

●経済産業省が毎年行う「中小企業実態基本調査」では出版社は【情報通信業】に分類され【製造業】から区分されている。

そして【製造業】との関係として次の注記がある。《主として新聞発行や書籍等の出版を行う事業所は【情報通信業】とするが、印刷及びその補助的業務を行う事業所は【製造業】に分類する。》補助的業務とは組版—刷版—製版—印刷—製本—製函等の工程で、これらは【情報通信業】ではなく【製造業】

と規定している。これらの補助的業務のうち、出版業に最も近い工程は「組版」である。「組版」とは著者から届いた原稿を著者本人と編集者・制作者が協働して中身(コンテンツ)に仕上げ、印刷会社がその中身(コンテンツ)を台(版)上に文字で組上げたものである。その後、組版は刷版、製版を経て輪転機で印刷され本となる。中身(コンテンツ)は「情報」とも呼ばれ、それを正業とする私たち出版社は【情報通信業】に分類される。一方、「情報」に形式(=本)を与える印刷及びその補助的業務を行うのが【製造業】である。「組版」とは【情報通信業】と【製造業】とのはざ間に位置するいわば「界面」的存在である。言い換えれば「組版」とは中身(コンテンツ)でもあり容器(メディア)でもある“溶解ゾーン”ということになる。

●出版事業において容器と中身がしばしば分ちがたく融合しているように思えるのはこの組版工程の界面性のためである。

出版社にはこの界面を通して極めて容易に【情報通信業】から【製造業】に移行するという特質があり、その傾向は創業以降次第に強まり、初め【情報通信業】だったものが段々【製造業】に近くなる。出版社にまつわる様々な問題もその境界領域に根があると考えて良い。(続く)

◎編集後記

「桜」同様に馴染み深い「梅」。近所の一角に、かれこれ20年以上佇んできた梅の木があります。冬の寒さに耐え春には可愛い花を咲かせ、梅雨の雨を恵みとし実を大きく膨らませます。もうすぐその実が収穫を迎えます。ふと、学生の頃に聞いた梅と「梅雨」に関連する話を思い出しました。「梅雨(つゆ)」は東アジア特有の雨季を指し、梅も東アジアにしか生息しないとか。梅雨という言葉の生まれには諸説あって、「梅の実が熟す頃に降る雨」という意味で中国の長江流域では梅雨(ばいう)と呼んでいたそうです。また、「梅が生えやすい時期の雨」という意味で「梅雨(ばいう)」とも呼んだが、梅では五感がよくないので同じ読みで季節にあった「梅」の字を使い、「梅雨」になったという話も。言葉の趣を汲み取った人々の、想いが感じられる季節です。(坂)

◎編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-0034 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ディー・エス「NTSニュース」係
FAX: 03-3814-9152 E-mail: eigyo@nts-book.co.jp

NTSニュース

2008年6月号(通巻112号)
2008年6月10日発行